



Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティ ユーザ ガイド

Cisco UCS C シリーズ サーバ向け
2011 年 1 月 14 日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティ ユーザ ガイド
© 2011 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	i
マニュアルの構成	i
関連資料	i
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	i
概要	1-1
Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティの概要	1-1
SEL Viewer ユーティリティの GUI の機能	1-1
SEL Viewer ユーティリティの CLI の機能	1-2
サポートされているオペレーティング システムとバージョン	1-2
サポートされるブラウザ	1-2
サポートされているハードウェア プラットフォーム	1-3
ユーティリティを実行するための前提条件	1-3
ユーティリティのインストール	2-1
インストールの概要	2-1
Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール	2-1
Linux サーバへのユーティリティのインストール	2-2
ユーティリティの起動	2-3
ユーティリティの削除	2-3
Microsoft Windows システムからのユーティリティの削除	2-3
Linux サーバからのユーティリティの削除	2-4
ログの使用	3-1
タスクの概要	3-1
ログの表示	3-1
ログのサマリーの表示	3-2
ログのソート	3-2
ログのフィルタ	3-3
ログ詳細の保存	3-3
ファイルの開き方	3-4
ログのクリア	3-4
オンラインおよびオフライン モードの使用	3-5
コマンドライン インターフェイスの使用	3-5

トラブルシューティング 4-1
問題のシナリオ 4-1



はじめに

ここでは、『Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティ ユーザガイド』の構成および表記法について説明します。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

章番号	章タイトル	説明
1	「概要」	System Event Log Viewer ユーティリティの概要が含まれます。
2	「ユーティリティのインストール」	System Event Log Viewer ユーティリティのインストールに関する情報が含まれます。
3	「ログの使用」	System Event Log Viewer ユーティリティを使用して実行できるさまざまなタスクに関する情報が含まれます。
4	「トラブルシューティング」	System Event Log Viewer ユーティリティでの作業で直面する可能性のある問題に関する情報が含まれます。

関連資料

Cisco UCS C シリーズ ラック マウント サーバのマニュアルは、次の URL で入手できます。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



CHAPTER 1

概要

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティの概要](#)
- [サポートされているオペレーティング システムとバージョン](#)
- [サポートされるブラウザ](#)
- [サポートされているハードウェア プラットフォーム](#)
- [ユーティリティを実行するための前提条件](#)

Cisco UCS Server System Event Log Viewer ユーティリティの概要

Cisco UCS Server System Event Log Viewer (SEL Viewer) ユーティリティでは、サーバによって生成されたすべてのシステム イベント ログを表示できます。Server Configuration Utility (SCU) 2.0(1) CD 上で利用可能なこのユーティリティは、スタンドアロン サーバのホストベースのオペレーティング システムで実行されるように設計されています。

このユーティリティを開く場合、最初に CIMC との接続の確立をしようとします。接続が確立されない場合、ユーティリティはオフライン モードで実行されます。CIMC の接続が確立されると、ユーティリティがオンライン モードで実行されます。

SEL Viewer ユーティリティには、グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) およびコマンドライン インターフェイス (CLI) が含まれます。ただし、サーバで GUI を使用して、生成された最新のログを表示することを推奨します。GUI にアクセスしたくない場合は、CLI を使用して、オフライン モードで生成および分析されたすべてのログを表示し、スナップショットを取得します。

このユーティリティを使用して、生成されたログを表示、ソート、およびフィルタ処理できます。また、GUI を使用して、ユーティリティの外部にあるファイルにログ ファイルの詳細を保存することもできます。ログは、.csv または .bin ファイルに保存できます。

SEL Viewer ユーティリティの GUI の機能

SEL Viewer ユーティリティの GUI の機能では、次の内容を実行できます。

- イベント ログのソート

デフォルトでは、ユーティリティはサーバに記録されているすべてのイベントを表示します。各列のレコードをソートできます。また、各カラムの幅を調整できます。

- イベント ログのフィルタ

[Filter] を使用して、表示されたイベントをフィルタ処理できます。イベントの重大度、ジェネレータ、またはセンサー タイプに基づいてイベント ログをフィルタ処理できます。

- オフラインおよびオンライン モードでの作業
- ファイルへのイベント ログの保存

SEL Viewer ユーティリティの外部にあるファイルにイベント ログを保存することもできます。
.csv ファイルまたは .bin ファイルとしてこれらのイベントを保存できます。イベントを表示および分析するため、Microsoft Excel で .csv ファイル、ユーティリティで .bin ファイルを開くことができます。

SEL Viewer ユーティリティの CLI の機能

SEL Viewer ユーティリティの CLI の機能では、次の内容を実行できます。

- ファイルへのイベント ログの保存

.csv ファイルまたは .bin ファイルとしてこれらのイベントを保存できます。

- さまざまな形式でのイベント ログの表示

次の形式で、システム イベント ログを表示できます。

- HEX
- テキスト
- XML

- イベント ログのクリア

ユーティリティおよび CIMC からすべてのイベント ログをクリアできます。このアクションは、永続的で戻すことはできません。

サポートされているオペレーティング システムとバージョン

SEL Viewer ユーティリティは、次のオペレーティング システムでサポートされます。

- Red Hat Enterprise Linux 5.3 (x86_64)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 (x86_64)
- Microsoft Windows 2003 R2 (x86 および x64)
- Microsoft Windows 2008 R2 (x64)
- Microsoft Windows XP SP2 (SEL Viewer ユーティリティのオフライン モードのみをサポート)

サポートされるブラウザ

SEL Viewer ユーティリティは、次のブラウザでサポートされます。

- Red Hat Enterprise Server では Mozilla Firefox 3.5 以降
- SUSE Linux Enterprise Server では Mozilla Firefox 3.5 以降
- Microsoft Windows 2003 および 2008 では Internet Explorer 7.0 以降

サポートされているハードウェア プラットフォーム

SEL Viewer ユーティリティは、次の Cisco サーバプラットフォームでサポートされます。

- Cisco UCS C200 サーバシリーズ
- Cisco UCS C210 サーバシリーズ
- Cisco UCS C250 サーバシリーズ
- Cisco UCS C460 サーバシリーズ

このユーティリティを実行するには、これらの C シリーズ サーバが Intelligent Platform Management Interface Specification (IPMI) 2.0 に準拠している必要があります。

ユーティリティを実行するための前提条件

SEL Viewer ユーティリティの前提条件は、次のとおりです。

- Windows 2003 を実行している場合は、SEL Viewer ユーティリティをインストールする前に手動で IPMI ドライバを起動します。
- Adobe Flash Player プラグイン (バージョン 10)
- Java バージョン 1.5 以上

■ ユーティリティを実行するための前提条件



CHAPTER 2

ユーティリティのインストール

この章は、次の内容で構成されています。

- [インストールの概要](#)
- [Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール](#)
- [Linux サーバへのユーティリティのインストール](#)
- [ユーティリティの起動](#)

インストールの概要

SEL Viewer ユーティリティは、Linux および Windows サーバおよびシステムにインストールできます。ユーティリティをインストールする前に、IPMI ドライバが実行されており、サービスがイネーブルであることを確認します。IPMI サービスが実行されていない場合、ユーティリティがオフライン モードで実行されます。

この項では、次の項目について説明します。

- [Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール](#)
- [Linux サーバへのユーティリティのインストール](#)

Microsoft Windows システムへのユーティリティのインストール

SCU CD からの SEL Viewer ユーティリティをインストールできます。

Windows 2003 および 2008 にユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** Windows オペレーティング システムを起動します。
 - ステップ 2** IPMI ドライバがインストールされており、IPMI サービスがイネーブルであることを確認します。
Microsoft Windows 2008 R2 システムでは、デフォルトで IPMI ドライバがインストールされています。Microsoft Windows 2003 システムの場合、IPMI ドライバをインストールして、サービスをイネーブルにする必要があります。
 - ステップ 3** IPMI ドライバをインストールするには、[Control Panel] > [Add/Remove Program] > [Add/Remove Windows Components] にアクセスします。

- ステップ 4** [Windows Components Wizard] で、[Management and Monitoring Tools] を選択して、[Next] をクリックします。
- ツールのインストールを完了してください。IPMI ドライバがインストールされた後で、IPMI サービスを起動する必要があります。
- ステップ 5** コマンドプロンプト ウィンドウを開き、次の内容を入力します。
- ```
rundll32 ipmissetp,RemoveTheDevice
rundll32 ipmissetp,AddTheDevice
```
- ステップ 6** CD ドライブに SCU CD を挿入します。
- CD の自動実行コンポーネントが開始します。
- ステップ 7** [SEL Viewer] をクリックして、SEL Viewer ユーティリティのインストールを開始します。
- インストール ウィザードが起動します。
- ステップ 8** エンド ユーザ ライセンス契約書に同意し、[Next] をクリックして、SEL Viewer ユーティリティをインストールします。



(注) 次の手順に従って、Windows XP オペレーティング システムに SEL Viewer ユーティリティをインストールできます。ただし、このオペレーティング システムは、SEL Viewer ユーティリティのオフライン モードだけをサポートします。オフライン モードでのユーティリティの使用の詳細については、[オンラインおよびオフライン モードの使用](#)を参照してください。

## Linux サーバへのユーティリティのインストール

Linux サーバに SEL Viewer ユーティリティをインストールするには、CD Cisco UCS SCU 2.0(1) にアクセスし、手動で .rpm ファイルをインストールする必要があります。

Linux システムにユーティリティをインストールするには、次の手順に従います。

- ステップ 1** Linux オペレーティング システムを移動し、root ユーザとしてログインします。
- ステップ 2** IPMI ドライバがインストールされており、IPMI サービスがイネーブルであることを確認します。
- ステップ 3** サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを入力して IPMI サービスを起動します。
- ```
service ipmi start
```
- ステップ 4** Cisco UCS SCU 2.0(1) CD を挿入するか、CD の .rpm ファイルを参照します。
- .rpm ファイルは、[Selviewer] > [Linux] フォルダで入手できます。
- ステップ 5** Red Hat Enterprise Linux サーバにユーティリティをインストールするには、次のコマンドを実行します。
- ```
rpm -Uhv selview-2.0-0.i386.rpm
```
- ステップ 6** SUSE Linux Enterprise サーバにユーティリティをインストールするには、次のコマンドを実行します。
- ```
rpm -Uhv selview-2.0-0.i586.rpm
```
- このコマンドは、ユーティリティのインストールを開始します。

ユーティリティの起動

このユーティリティを開くには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** IPMI ドライバがイネーブルであることを確認します。
- このドライバは、ユーティリティと CIMC 間の接続を確立するのに必要です。このサービスがイネーブルにされていない場合、ユーティリティはオフラインモードで実行されます。
- ステップ 2** ブラウザを開き、`http://localhost:9099/index.html` または `http://<ip_address_of_host>:9099/index.html` を入力します。
- SEL Viewer ユーティリティが開きます。
-

デフォルトでは、ユーティリティを起動するポート番号が 9099 に設定されています。`selview.cfg` ファイルを使用してこのポート番号を変更できます。ポート番号を変更する場合、SEL Viewer サービスを再起動します。

Windows システムで SEL Viewer サービスを再起動するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [Start] > [Run] の順にクリックします。
- ステップ 2** `services.msc` と入力します。
- [Services] ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** `selview` を選択して右クリックします。
- ステップ 4** [Restart] をクリックします。
- SEL Viewer サービスが起動します。
-

Linux サーバで SEL Viewer サービスを再起動するには、次のコマンドを実行します。

service selviewd restart

SEL Viewer サービスが起動します。

ユーティリティの削除

ここでは、次の内容について説明します。

- [Microsoft Windows システムからのユーティリティの削除](#)
- [Linux サーバからのユーティリティの削除](#)

Microsoft Windows システムからのユーティリティの削除

Windows システムからユーティリティを削除するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [Start] > [All Programs] の順にクリックします。
- ステップ 2** [Cisco] > [Unified Computing System] > [Uninstall Cisco SEL Viewer] の順にクリックします。

SEL Viewer ユーティリティがシステムから削除されます。

Linux サーバからのユーティリティの削除

次のコマンドを実行して、Linux サーバからユーティリティを削除します。

```
rpm -e selview
```



CHAPTER 3

ログの使用

この章は、次の内容で構成されています。

- [タスクの概要](#)
- [ログの表示](#)
- [ログのソート](#)
- [ログのフィルタ](#)
- [ログ詳細の保存](#)
- [ログのクリア](#)
- [オンラインおよびオフライン モードの使用](#)
- [コマンドライン インターフェイスの使用](#)

タスクの概要

SEL Viewer ユーティリティを使用すると、ログで次の作業を実行できます。

- ログの表示およびソート
- 重大度、イベント ジェネレータ、またはイベントのセンサー情報に基づいた、ログのフィルタ処理
- ユーティリティの外部にあるファイルへのログの詳細の保存
- オンラインとオフライン モード間の切り替え

ログの表示

ユーティリティを起動する場合、オンライン モードで実行されている場合は、生成されたすべてのログを参照できます。右側のペインで、[Entries per page] フィールドが各ページに表示されているイベント数を表示します。このフィールドを使用して、各ページに表示されているイベント数を変更できます。次のいずれかのオプションを選択できます。

- All
- 50
- 100
- 200

各ログ エントリには、次の情報が表示されています。

- [Record ID] : イベントの ID
- [Timestamp] : イベントが発生した時刻。これは yyyy-mm-dd hh:mm:ss 形式で表示されます。
- [Severity] : Critical、Non-Recoverable、Informational、Warning、または Normal のいずれかになります。
- [Generator] : イベントのジェネレータ。BIOS、CIMC、OEM、または Unknown のいずれかになります。
OEM として表示されているジェネレータを持つイベントはデコードされておらず、16 進数値で表示されます。
- Sensor Information
- Event Description
- Event State

特定のログの追加情報を表示するには、ログ エントリをダブルクリックします。[Record Information] ページが表示されます。

生成されたイベントのページ間を移動するには、[<< First]、[< Prev]、[Next >]、および [Last >>] オプションを使用できます。これらのオプションを使用すると、[Page] フィールドは、イベントが表示しているページ数を表示します。

ログのサマリーの表示

ユーティリティの上部のペインに、生成されたすべてのイベントのサマリーが表示されます。ログの総数、クリティカルなログ数、および修正不可能なログ数などの情報が表示されます。

[SEL] > [SEL Info] をクリックして、現在の SEL 情報を表示することもできます。後続の画面は、次の情報を表示します。

- エントリの総数
- 残りの領域のパーセンテージ
- 最後に追加されたイベントのタイムスタンプ
- 最後に削除されたイベントのタイムスタンプ



(注) オフライン モードでは、[SEL Info] オプションはディセーブルです。

ログのソート

オンライン モードでユーティリティを開くと、生成されたすべてのログが表示されます。これらのログの詳細をソートして、適した形式で情報を表示できます。任意のカラム ヘッダーをクリックして、ログのリストをソートできます。

または、行を選択して、F9 を押して、センサー タイプに基づいてログをソートします。たとえば、センサー タイプとしてチップセットで表示されているエントリをクリックして、F9 を押すと、チップセットとしてセンサー タイプが指定されているすべてのログが表示されます。

ログのフィルタ

ログのソートに加えて、[Filter] オプションを使用して、重要なログを表示できます。センサー タイプ、ジェネレータ、および重大度に基づいてログをフィルタ処理できます。

1 つの基準でログをフィルタ処理した後、後続のフィルタリング タスクが以前のフィルタリング タスクの検索結果内で行われます。たとえば、クリティカルな重大度としてマークされているログをフィルタ処理した後、ジェネレータとして BMC を選択して、[Go] をクリックすると、重大度がクリティカルとマークされ、かつジェネレータとして BMC を持つすべてのログが表示されます。元のログ セットのフィルタリング タスクを実行するには、[Clear Filter] をクリックします。

表示されたログをフィルタ処理するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** ユーティリティの上部のペインで、[Filter] の下から [Severity]、[Generator]、または [Sensor Info] のいずれかのオプションを選択します。
- ステップ 2** 重大度に基づいてイベントのリストをフィルタ処理するには、次のいずれかのオプションを選択します。
- None
 - Critical
 - Non-Recoverable
 - Informational
 - Warning
 - Normal
- ステップ 3** ジェネレータに基づいてイベントのリストをフィルタ処理するには、次のいずれかのオプションを選択します。
- None
 - BMC
 - BIOS
 - OEM
 - Unknown
- ステップ 4** センサー タイプに基づいてリストをフィルタ処理するには、テキスト ボックスにセンサーのタイプを入力します。
- ステップ 5** [Go] をクリックします。経過表示バーにフィルタリング タスクが進行中であることが表示されます。選択した基準に基づいてフィルタ処理されたログで画面が更新されます。ユーティリティの下部のペインに、フィルタリング条件に一致するレコードの合計数が表示されます。
- ステップ 6** フィルタリング条件をクリアするには、[Clear Filter] をクリックします。
-

ログ詳細の保存

SEL Viewer ユーティリティを使用して、ユーティリティの外部にあるファイルにログ詳細を保存することができます。.csv ファイルまたは .bin ファイルとしてファイルを保存できます。.csv ファイルにログ詳細を保存する場合は、Microsoft Excel で開くことができます。.bin 拡張子を持つファイルを保存すると、後でこのユーティリティで開くことができます。

ファイルにログ詳細を保存するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [File] > [Save As] をクリックします。
 - ステップ 2** [Binary] または [Csv] を選択します。
ファイルを保存するか、プログラムを検索してファイルを開くようプロンプトが表示されます。
 - ステップ 3** [Save] をクリックします。
 - ステップ 4** ファイルを保存する場所を指定して、[OK] をクリックします。
-

ユーティリティがオフライン モードで実行されている場合、ログ ファイルを開き、このユーティリティ内で表示することができます。 .csv または .bin 形式でログ詳細を保存できますが、このユーティリティでファイルからログ詳細を表示する場合、使用できるのは .bin ファイルのみです。

ファイルの開き方

ユーティリティがオフライン モードの場合、すべてのログ情報が含まれるファイルを開くことができます。このユーティリティでは .bin ファイルのみを開くことができます。また、.bin ファイルは以前 GUI または CLI を通じて SEL Viewer ユーティリティに保存されている必要があります。



-
- (注) オフライン モードでは、SEL Viewer ユーティリティの CIMC からログを含むファイルを開くと、[Save] オプションがディセーブルになります。
-

保存されたログ ファイルを開くには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [File] > [Open] の順にクリックします。
 - ステップ 2** 表示されるダイアログボックスで、ファイルのパスを指定します。
任意で、[Browse] をクリックして、ファイルを特定します。
 - ステップ 3** [OK] をクリックします。
ユーティリティでファイルが開きます。
-

ログのクリア

このユーティリティには、ユーティリティおよび CIMC からログをクリアするオプションが用意されています。ログがユーティリティおよび CIMC からクリアしたら、後で取得することはできません。CIMC からすべてのログを確実にクリアする場合にのみ、[Clear] オプションを使用することを推奨します。

ユーティリティからログをクリアするには、[SEL] > [Clear] の順にクリックします。すべての SEL レコードをクリアすることを確認するプロンプトが表示されます。[OK] をクリックして、すべてのログをクリアします。ユーティリティおよび CIMC からすべてのログがクリアされます。

オンラインおよびオフライン モードの使用

ユーティリティが CIMC との通信チャネルを確立すると、オンライン モードで実行されます。このモードでは、生成された最新のログを表示して使用できます。通信チャネルが CIMC で確立されない場合、このユーティリティはオフライン モードで実行されます。さらに、Windows XP SP2 システムのオフライン モードでのみ SEL Viewer ユーティリティを実行できます。

また、サーバに GUI をインストールしない場合は、CLI を使用して、サーバからすべてのスナップショットをキャプチャし、.bin ファイルとして保存できます。その後、システムでこのユーティリティの GUI にログインし、オフライン モードでファイルを分析できます。

オフライン モードでは、最新のデータを表示することはできません。以前のユーティリティに表示されているログ ファイルを含む .bin ファイルしか開けません。オフライン モードでは、ほとんどのオプションがディセーブルです。ログを保存またはクリアすること、および [SEL Info] オプションを使用することはできません。ただし、[SEL] > [Reload] をクリックして、CIMC との接続の確立を試みることはできます。

コマンドライン インターフェイスの使用

次の表は、SEL Viewer ユーティリティの CLI のイベント ログでの作業に使用するコマンドを表示します。

表 3-1 コマンドについて

コマンド	説明
<code>selview help</code>	SEL Viewer ユーティリティのヘルプを表示します。
<code>selview [display show] {hex xml} {abc.bin}</code>	次の形式のいずれかでイベント ログ データを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • テキスト • HEX • XML ファイル名が指定されている場合、イベント詳細がファイルから表示されます。
<code>selview save abc.bin</code>	バイナリ ファイルの SEL データを保存します。
<code>selview save abc.csv</code>	CSV ファイルの SEL データを保存します。
<code>selview clear</code>	ユーティリティおよび CIMC からすべてのログ詳細をクリアします。このアクションは元に戻しません。
<code>selview write abc.bin</code>	SEL レコードをリロードします。このコマンドは、.bin ファイルから内容を読み込み、ユーティリティに書き戻します。



CHAPTER 4

トラブルシューティング

この章では、SEL Viewer ユーティリティでの作業で直面する可能性のあるいくつかの問題について説明します。さらに、問題を解決するため、ユーザーが従う必要がある手順を示します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [問題のシナリオ](#)

問題のシナリオ

表 4-1 に、SEL Viewer ユーティリティでの作業で直面するかもしれない問題、問題を解決するためユーザーが行うべきステップを示します。

表 4-1 問題と解決方法

問題	原因	解決策
SEL Viewer ユーティリティがサーバで起動すると、ユーティリティがオフラインモードで実行されていることを示すメッセージが表示されます。	<p>この問題の原因は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> IPMI ドライバがイネーブルにされていないか、IPMI サービスが実行されていません。 <p>SEL Viewer ユーティリティが CIMC と接続できるように、IPMI ドライバとサービスがイネーブルで、実行されている必要があります。このサービスがイネーブルでない場合、ユーティリティは CIMC と接続できません。ユーティリティが CIMC に接続できない場合、ユーティリティがオフラインモードで実行されていることを示すメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> インストール時に、SEL Viewer エージェントがインストールされます。オンラインモードでユーティリティを実行させるためには、このサービスが実行されている必要があります。このサービスが停止すると、ユーティリティはオフラインモードで実行されます。 	<p>IPMI ドライバがイネーブルにされており、IPMI サービスが実行されていることを確認します。</p> <p>SEL Viewer ユーティリティを開き、[Reload] をクリックします。ユーティリティは、CIMC に接続されます。CIMC への接続が確立されると、ユーティリティがオンラインモードで実行されます。</p> <p>IPMI サービスがインストールされ、サービスが実行されていて、ユーティリティがまだオフラインモードで実行されている場合は、SEL Viewer エージェントが実行されているかどうかを判別する必要があります。</p> <p>Windows システムでは、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Start] > [Control Panel] > [Administrative Tools] > [Services] をクリックします。 SEL Viewer エージェントが実行されているかを判別します。 停止している場合は、サービスを選択し、[Start] をクリックします。 <p>Linux サーバでは、次のコマンドを実行します。</p> <p>service selviewd status</p> <p>このコマンドは、SEL Viewer デーモンが実行されているかどうかを表示します。実行されていない場合は、次のコマンドを実行してください。</p> <p>service selviewd start</p> <p>SEL Viewer ユーティリティを開き、[Reload] をクリックします。ユーティリティは、CIMC に接続されます。</p>
.bin ファイルに保存されるログの詳細は、SEL Viewer ユーティリティで開くことができません。	<p>SEL Viewer ユーティリティで以前保存された .bin ファイルだけ開くことができます。</p> <p>他のユーティリティから .bin ファイルを保存した場合、SEL Viewer ユーティリティでファイルを開けません。</p>	<p>SEL Viewer ユーティリティでは、SEL Viewer ユーティリティで保存されていない .bin ファイルを開くことはできません。</p>

問題	原因	解決策
最新のイベント ログがユーティリティに表示されません。	システム イベント ログが一杯である可能性があります。	ユーティリティからイベント ログをクリアしなければなりません。ただし、ユーティリティからイベントをクリアすると、CIMC からイベントもクリアします。イベントの詳細の一部を保持したい場合は、ファイルにイベント詳細を保存してから、そのログをクリアします。
<a href="http://<IP address>:9099">http://<IP address>:9099 というアドレスを使用している場合、SEL Viewer ユーティリティは起動しません。	ファイアウォールがホストのオペレーティング システムでアクティブです。	ファイアウォールが SEL Viewer ユーティリティが使用するポートの受信データに対して無効になっていることを確認します。この場合、ポート番号は 9099 です。



INDEX

S

SEL Viewer

CLI の機能 [1-2](#)

GUI の機能 [1-1](#)

概要 [1-1](#)

SEL Viewer Service

Linux [2-3](#)

Windows [2-3](#)

い

インストール

Linux [2-2](#)

Windows [2-1](#)

概要 [2-1](#)

こ

コマンド

selview clear [3-5](#)

selview [display/show] {hex/xml} {abc.bin} [3-5](#)

selview save abc.bin [3-5](#)

selview save abc.csv [3-5](#)

selview write abc.bin [3-5](#)

さ

削除

Linux [2-4](#)

Windows [2-3](#)

サポートされる OS [1-2](#)

サポートされるブラウザ [1-2](#)

せ

前提条件 [1-3](#)

は

ハードウェア プラットフォーム [1-3](#)

ゆ

ユーティリティ

オンライン オフライン モード [3-5](#)

開く [2-3](#)

問題 [4-1](#)

ろ

ログ

概要 [3-1](#)

クリア [3-4](#)

サマリー [3-2](#)

ソート [3-2](#)

表示 [3-1](#)

ファイルを開く [3-4](#)

フィルタ [3-3](#)

保存 [3-3](#)

©2008 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systems ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料の記載内容は2008年10月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255(フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日 10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>